

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年10月25日

JAMA Pediatr :

妊娠中の新型コロナワクチン接種と出生直後の乳児の健康状態との関連

【松崎雑感】

妊娠中に新型コロナワクチン（mRNAワクチン）を受けると、胎児、新生児に悪い影響がもたらされることが、反ワクチン陣営からさんざん吹聴されました。

14万人以上の出生児について、粛々と妊娠中のワクチン接種が、生まれた子どもたちに悪影響を及ぼさないかが調査された結果が報告されました。

結論：妊娠中ワクチンを打った方が良い！という事です。

妊娠中の新型コロナワクチン接種と出生直後の乳児の健康状態との関連

Jorgensen SCJ, Drover SSM, Fell DB, et al. **Newborn and Early Infant Outcomes Following Maternal COVID-19 Vaccination During Pregnancy** [published online ahead of print, 2023 Oct 23]. *JAMA Pediatr.* 2023;10.1001/jamapediatrics.2023.4499. doi:10.1001/jamapediatrics.2023.4499

背景

われわれは以前、妊娠中の新型コロナワクチン接種が、新生児と乳児の新型コロナ感染と入院を減らすことを報告した。今回、妊娠中のmRNAワクチン接種が新生児と乳児の健康状態にもたらす影響を検討した。

目的

妊娠中のmRNAワクチン接種が新生児と乳児の健康状態に悪影響をもたらさないかどうかを検証する。

方法

オンタリオ州一般住民ベース後顧的コホート調査。2021年5月1日から2022年9月2日までに出生した単胎児を対象とした。妊娠中の母親に対する1回かそれ以上のmRNAワクチン接種を曝露指標とした。重症新生児障害、新生児死亡、ICU治療、再入院、生後6か月以前の入院をエンドポイントとした。これらのエンドポイント到達率をワクチン接種の有無で検討した。

結果

14万2千6名（男児51%。平均在胎週数38.7週）のうち母体ワクチン接種あり85670名（60%）。母体ワクチン接種ありで有意に重症新生児障害が少なく（7.3%対8.3%、調整リスク比0.86）、新生児死亡が少なく（0.09% 対0.16%；調整リスク比 0.47）、NICU入床が少なかった（11.4% 対 13.1%；調整リスク比 0.86）。

母体のワクチン接種と新生児再入院リスクに有意差は見られなかった（5.5%対 5.1%、調整オッズ比1.03）。6か月以内の入院率にも差は見られなかった（8.4% 対 8.1%；調整オッズ比1.01）。

考案

本コホートでは、母体のmRNAワクチン接種が重症新生児障害・新生児死亡・NICU治療のリスク低下と有意に関連していた。

また、母体ワクチン接種による生後6か月以内の入院リスク増加は見られなかった。

